

夜間学校ニュース

1987年9月13日
西成区萩之茶屋2の
8の9 旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を

「失業率、最悪の3%」と

釜ヶ崎・外国人労働者：

最近の夜間学校ニュース

は、新聞記事の転載が多い。

新聞ぐらゐ読んで、

何を考へての転載ヤ、とい

う声かボチボチ聞こえてき

そつだ。

別にたいした考へがある

わけではない。つじつまの

合わない話をみんなと一緒

に考へてみようというだけ

の話だ。

失業率といふのは、働く

能力と意志がある労働者の

人口（労働力人口という）

の中における失業者の割合

のことだが、一九五三年に

失業率の調査を始めて以来、

初めて三%をこえたという。

これは、今年一月の時点で

で、百八十二万人の失業者

が、日本にいらつたというこ

をあらわしてあり、昨年一

月時点での比較でいうと、

就業者が増えたのは――

農林業とサービス業、卸

売・小売業、飲食店、

就業者が減つたのは――

建設四万人減、製造業三

十八万人減（繊維十九万人、

自動車・造船など七十七万人、

化学、石油、石炭製。〇八万

人、鉄鋼、非鉄金属三万人）

製造業での就業者数の二

れだけの落ち込みは第二次

オイルショック以降では七

九年四月の四十四万人に次

ぐものだといふ。

しかも、石炭、造船、非

鉄などの構造不況業種は、

それぞれ人員削減計画を立

ててあり、十万人の削減を

する。また、国鉄をクビに

なつた人々も失業者の中に

これから加わつてくる。

今年に入って夜間学校

ニュースでは、センター

であつた、仲間から

の聞き取りの報告をおこ

なつてきたが、その中で

明らかになつたことは、

八十年代に入って釜に采

た仲間は、合理化や倒産

などのせいで製造業を

なれてきた人が多いとい

うことだつた。それから

すると、まだこれから、

釜ヶ崎の労働者の数は増

え続けられていくことが充

予想される。だから取

は、アフレの列を前に押

二めて、後の番号のちを
 がうがつにしているのだ。
 日本国内に失業者があ
 り、釜でも労働者がふ
 えすぎ傾向にあるのに、
 前回、今回と夜間学校二
 ユースが転載している新
 聞記事は、「人手不足で
 外国人労働者を使った
 というものばかりであ
 る。」

「ミスマッチ」とい
 う言葉が流行ってい
 る。これは求職と求
 人がうまく適合しな
 いことをさす。業種、
 職種、地域などが求
 人と求職でうまくか
 みあれない、たとえ
 ば下の記事のような
 ことをさす。
 しかし、ミス・マ

ツキは人為的につくられた側
 面を持つ。「日本の労働者は
 重労働をいやがり使いにくい、
 賃金が高い」。そういう声か
 出はじめたのは「円高」のせい
 だ。日本の労働者のせいでは
 ない。「円高」は誰のせい
 労働者の得るべき利益を、企業が
 盗みたくゆえすぎたせいだ。



密航者4人働かせ

東成の「重労働文句いわぬ」
 土木業者

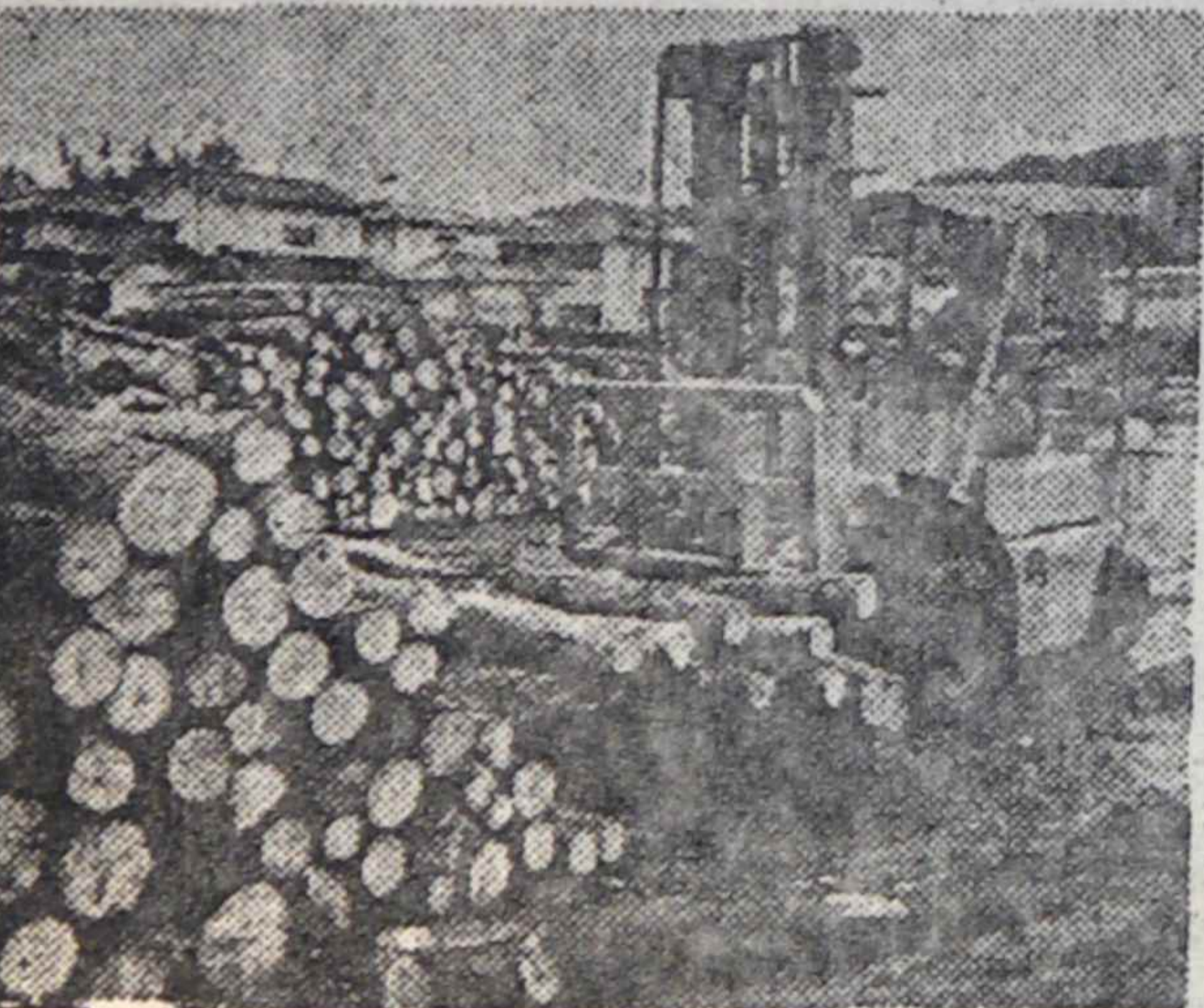
大阪・生野署は、六日まで
 に韓国からの密航者を働かせ
 ていた大阪市東成区中道三の
 九の二七、土木請負業「上村
 組」経営上村勲(こと金紀澄
 (きよせい)(三八)を犯人蔵匿、
 密航者ら四人を出入国管理及
 び難民認定法、外国人登録法
 違反の疑いで逮捕した。
 調べによると、金は地下ト
 ンネル内の下水道管工事な
 どを請け負っているが、重勞
 働のため、人手が集まらない
 ことから密航者に目をつけ、
 昨年十月から今年二月にかけ
 知人の紹介で密航者を雇い、
 一か月三十万―四十万円の給
 料で生野区内の現場で働かせ
 ていた。
 四人は五十五年十月から昨
 年十月の間に入国、うち二人
 は韓国・釜山から四十万―六
 十万円の手数料を払って小型
 船などで密入国。他の二人は
 観光ビザで来日、不法残留を
 続け、大阪などで土木作業を
 しているところを金に「高収
 入の仕事がある」と誘われた
 という。
 四人とも「韓国での生活が
 苦しく、働きに来た」といっ
 ており、生活費を切り詰め、
 収入の大半を韓国の妻子らに
 送金していた。

中国山地から

キ林の管理を引き受けている。
 その五人は、つかまる一カ月半
 前、大阪の伐採業者が連れて来
 た。提示した請負額は一平方
 当たり九円、相場より四円も安
 かった。下草刈りの人手がな
 った時だけに、組合は飛びつ
 いた。
 山ふもとの広島県賀茂郡福宮
 町上竹仁地区、戸数約百五十。
 ここに住みついた五人は高圧線
 工事の作業員以来、十年ぶりの
 転入者だった。彼らは朝五時半
 から夕方六時まで、とにかくよ
 く働いた。近所の人びとも好感
 を寄せ、言葉のクセも「遠方の
 方言じゃろう」と思っていた。
 ところが、一人が警官の職務
 質問を受けたことから、密航や
 不法残留で全員がつかまる。い
 ずれも四十歳代。地区の人たち
 は初めて韓国人だったことを知
 った。
 ヒノキ林の作業はそのころに
 はほぼ終わっていた。下草が十
 二、三十歳代の働き盛りでし
 た。そこに立ってみて土居さん
 は「わしらの仕事
 より丁寧や」と舌
 を巻くばかりだっ
 た。
 組合の作業員は
 現在六十六人、平
 均年齢は六十五歳
 である。傾斜三〇
 一四〇度の林、わ
 きにかかえる重さ
 三〇の下草刈り
 が続けてきた、と供述している。

ある助っ人

三全線(第三次全国総合開発
 計画)が人口の地方分散を進め
 るとして「定住圏構想」を打ち
 出して十年。いま四全線が「分
 散」から「集中」、さらに「東
 京優先」へと動き出そうとして
 いる。そうした中で賀茂地方森
 林組合は今春初めて職安に作業
 員募集を依頼する。島根県では
 過疎地のあえぎが聞こえてくる
 ようだ。
 町村役場から年間約二十件の照
 会が続いている。
 「田園まことに荒れなんどす」。
 過疎地のあえぎが聞こえてくる
 ようだ。
 「中国山地から」はこれで
 終わります



過疎地の命運は林業が握る
 =広島県・賀茂地方森林組合で

読売新聞(夕)
 八七年三月六日
 不人気な強労働に賃金で
 外国人労働者たち